日本リスク学会第 34 回年次大会
講演論文集(Vol.34, Nov.20-21, 2021)

食品添加物に関するリスクコミュニケーションの社会実装例

The Risk Communication Concerning Food Additives - Examples of Practical Implementation in Society

○山﨑 毅*
Takeshi YAMASAKI

Key Words: food additive, confirmation bias, smart risk communication,

１.食品添加物に関わる社会問題の背景

20 世紀後半から「カネミ油症事件」などの食品添加物に関連した食中毒事故や「複合汚染」「食べるな危険・・」などといった人気書籍の影響により、国民の食品添加物に対する忌避感が助長されていたが、それに呼応して加工食品に「無添加」「保存料・合成着色料不使用」などがの表示が常態化し、消費者の食品添加物に対するリスク誤認が社会問題化した。その反面、今世紀に入って成立した食品安全基本法と国の独立したリスク評価機関である食品安全委員会の設立により、食品のリスクアナリシス（リスク評価／リスク管理／リスクコミュニケーション（以下リスコミ））が機能し始め、専門家だけでなく科学的に中立な市民団体も食品添加物が杞憂の健康リスクであることに気付き、科学的に適正なリスコミを展開した。

２.確証バイアスに配慮したリスコミ手法

2018 年、我々はインターネット調査により食品添加物の健康リスクに過敏な 30 代・40 代の女性 100 名を抽出し、確証バイアスをターゲットとして開発したスマート・リスクコミュニケーション(SRC)の効果検証を実施し、79%の回答者でリスク認知バイアスの補正を認めた。SRC は、まず不安要因に共感した設問を投げかけたうえで、当該不安にピンポイントでわかりやすく学術的説明を提供するリスコミ手法であり、ゴールは消費者を「説得」することではなく「理解を促す」ことだ。

３.リスコミの社会実装例

① 食品添加物のリスクに関する Q&A を広報

Q：食品添加物は身体によくないという記事をよく見かけますが本当なのでしょうか？

A：それは誤りです。日本国内で認可されている食品添加物の安全性は FAO／WHO 合同食品添加物専門家会議（通称：JECFA）により国際的に評価されたデータに、日本人の食経験などを加味して、その使用基準が決められたもので、きわめて安全性の高いリスク管理がされています。（後略）

http://www.nposfss.com/cat3/faq/post_59.html

＊Slovic の「未知性因子」に配慮した毅然とした回答。

② 食品添加物の誤情報をファクトチェック

週刊誌に掲載された「食品添加物の配合種類が多い加工食品ほど発がんリスクが高い」という誤情報をファクトチェックし「レベル４：フェイクニュース」と評価判定。

http://www.nposfss.com/cat3/fact/shincho_20190131.html

＊Slovic の「未知性因子」に配慮した毅然とした広報活動。

③ 食品添加物のリスコミ動画の監修

SRC 手法を応用したアニメーション動画「食品添加物のおはなし」を YouTube 配信（加工食品食育推進協議会）。SFSS の Twitter やホームページで常時配信。 https://t.co/Fa9Bce6eKD?amp=1

④ 徳島県消費者大学校大学院リスコミ講座

食品安全リスクコミュニケータ養成講座にて、仮想グループワークで SRC 手法を食品添加物のリスコミに応用した。

https://www.npo-tokushohi.net/docs/2020082200011/

国内の加工食品市場において食品添加物が杞憂のリスクとの科学的認識が定着し、現在消費者庁の食品表示検討会にて「無添加表示」を制限する法規制が検討中であることは感慨深いところだ。

＊ 特定非営利活動法人食の安全と安心を科学する会（SFSS）